

佳作

初めての宙

千葉県 千葉市立葛城中学校三年 平実莉

私は七月三十日の土曜日の夜にとつじよ千葉県の南房総市にある野島崎灯台へ星を観に行きました。自分は本物の星空は見たことがなく、星好きで、いつか見てみたいという夢がありました。その日の前日は丁度新月で、月が見えず、もう今日しか行くチャンスはないだろうということで行くことになりました。

いざ着いてみると、プラネタリウムと同じ景色が広がっており、美しすぎて信じられませんでした。目の前にはさそり座、天の川、夏の大三角と夏の王道を飾る星座達が夜空でまたたいていました。赤い赤色巨星のアンタレス、○点○等星のベガと星々の中でもそれぞれがそれぞれの色と個性で光り輝いていて、時折、流れ星がいくつか落ちました。流れ星を見たことがない私は、よく流れ星が流れている間

に三回心の中で願い事を願うと叶うなどの話がありますが、以前に流れ星を見たことがあるという母は、「心の中で三回となえられない。速いよ。一瞬で流れちゃうから、じっとずーっと空見てないとすぐ流れちゃう。もしかしたら今までしゃべってる間にひゅーんって流れてるかもね。」

と言いました。母の実家は山梨にあり、比較的田舎の土地にあるので、そう教えてくれました。

「ペルセウス座流星群の時なんて次から次へと落ちてくるよ。」

と言っていました。

もうすでに夜の十時あたりをまわっていました。母がスマホをかまえて夏の大三角をカメラにおさめようとシャッターを切り、撮れた写真を見せてもらうと、アイフォンのロック画面の初期設定のような幻想的な風景が撮れていました。

「うわあ…。きれいに撮れたね…。」

今度はパノラマで撮るためふいに左の空へと顔を向けるとひときわ目立つ、多分今見えている星の中で一番明るく見えるであろう星が顔をのぞかせていました。木星です。明るさだけでなく、大きさ、距離も夜の空で存在感を見せる重要なポイントなのだ

と気づくことができました。

プラネタリウムとは比較にならない美しさ、広大さが本物にはありました。さきほど写真の話をしましたが、やはり肉眼ほどきれいに見えるレンズはないなと実感もしました。私の中で星とは、百三十八億年という宇宙の中で何千、何億年と光り続けている偉大な生命だと感じています。その中で自分はまだ十五年しか生きていないとでもちっけな生き物だなと感じました。こんなにも興奮する楽しい素晴らしい体験ができ、こんなにも充実した夜を過ごしたのはいっぱいだろうか。そんなことを考えながら母が運転する車で長い家路を急ぎました。